

## ベストメンテナンスで機器もリフレッシュ！

## 長期停止時の機器メンテナンスのポイント①

## プレートセッター

T-6000 シリーズ / T-9000 シリーズ / T-9900G  
V-6 / V-9600

## ●長期停止前の準備

- オートローダーを使用の場合は、プレートを使い切るようにするか、箱に戻して密封保管してください。  
《注意》 夏場の高温期では合紙が吸湿し、波うち状態となって給版不良になる場合があります。
- パンチ屑の回収および本体各部を清掃してください。  
ドラム、クリーニングローラー、外装カバーフィルター、チラー用フィルター、コンベアベルトなど  
※機種により異なります。詳細は取扱説明書を参照してください。
- 元電源のブレーカーを OFF にします。  
※コンプレッサー使用時は、コンプレッサーの元電源ブレーカーも OFF にしてください。

## ●長期停止後の運転

- 空調と本体電源は早めに投入し、ウォーミングアップ時間として2時間以上取るようにしてください。  
《注意》 寒冷期は室温が上がっても本体はまだ冷えており、ウォーミングアップに数時間を要する場合があります。  
※本体が冷えた状態で使用しますと刷版品質に影響する場合があります。品質を維持するため、以下の環境条件で使用してください。
  - 温度：23 ± 2℃
  - 湿度：40 ～ 70%（T シリーズ機）  
50 ～ 60%（V シリーズ機）
- 絵柄を露光して現像処理し、露光品質を確認してください。

## PS プロセサー / CTP プロセサー

PS-940VII/PS-940NII/PS-1310VII/PS-1310NII  
XP-940R / XP-1310R / XL-940 / XL-1310  
LP-940HII / LP-1310HII  
LP-1250P LX / FLV-68J

洗浄・液仕込みの際は、必ずゴム手袋、保護メガネおよびゴムエプロンを使用してください。また、電源は OFF してください。

## ●長期停止前の準備

- 処理タンク内の現像液、水洗面、フィニッシングガムを排液し、回収します。

- スプレーパイプ、搬送ローラー、ローラー側板などを取り外し、清掃してください。  
搬送ローラーはウエスで水洗いしますが、汚れが落ちにくい場合は、クリームクレンザーを使用してください。  
※推奨品：ジフ（ユニリーバ・ジャパン株式会社製）  
また、スプレーパイプの吐出穴が詰まっている場合は、クリップなどの先が尖ったもので取り除いてください。
- 各処理タンクを水洗いしてください。  
《注意》 液交換・タンク清掃時の洗浄水は、2 回目循環水までは廃液として回収してください。
- 現像部入口センサー、乾燥部出口センサーおよびリエントリーセンサーを乾いたウエスで清掃します。（リエントリーセンサー搭載機種：PS-940VII/NII、PS-1310VII/NII）  
電導度センサーを使用している装置は、取扱説明書を参照して清掃してください。
- 現像部、水洗部およびフィニッシング部のフィルターを清掃してください。  
※ LP1250P LX、FLV-68J の現像／水洗フィルターは交換します。
- 搬送ローラー等、取り外したすべての部品を取り付け、各タンク内に水を注入します。  
《注意》 現像部に 45℃前後の温水を入れると、安全機構が作動し、エラーとなる場合があります。温水を注入する場合は 40℃以下にしてください。
- 処理部の駆動軸ウォームギア、駆動シャフト部およびスラストベアリング部の古い潤滑剤（グリース）を拭き取り、新しく塗り替えてください。  
※専用品：サンコール LEN-317F（サンケイ化学製）  
《警告》 必ず装置の電源を切ってから行ってください。
- 水垢発生の予防策として水垢防止剤を水洗タンク内に 20cc 添加し、5 分程度循環させます。  
また、給水タンク内にも 20cc の水垢防止剤を添加します。
- ローラーのロックレバー／固定金具は必ず解除状態にしてください。
- 装置内の結露を防ぐため、上蓋を少しずらしておいてください。
- 元電源のブレーカーを OFF し、給水元栓を閉めてください。

## ●長期停止後の運転

- 元電源のブレーカーを ON し、給水元栓を開きます。
- ローラーのロックレバー／固定金具をロックします。
- 各処理タンク内の水を排水します。  
《注意》 水洗タンク内の水は、廃液として回収してください。
- 現像補充液、フィニッシングガム補充液、水垢防止剤および

- 給水タンク内の水が十分に入っていることを確認します。
- 新液仕込み手順に従い、現像液、水洗面、フィニッシングガムを仕込みます。  
LP-1250P LX、FLV-68J はプレ水洗部とリンス部にも水を注入します。  
《注意》 LP-1250P LX、FLV-68J では、フィルター内エア抜きを実施してください。
- 液もれ・水もれがないか、配管系を点検してください。
- 絵柄を露光した版を現像処理し、処理品質を確認してください。

## 廃液削減装置システム機器

XR-2000 / XR-5000 / XR-1200J  
XR-R60

## ●長期停止前の準備

取扱説明書の「連休時の留意事項」を参照してください。

- つけ置き洗浄状態にして電源を切ります。
- 本体ブレーカーを OFF にします。  
※ XR-R60 は給水元栓を閉めてください。

## ●長期停止後の運転

取扱説明書の「連休時の留意事項」を参照してください。

- 本体ブレーカーを ON にします。
- つけ置き洗浄水を排水します。  
※ XR-R60 は給水元栓を開いてください。  
また、水垢防止剤の量を確認してください。

## イメージセッター



F-6000 / F-9000

## ●長期停止前の準備

- パンチ屑の回収および本体各部を清掃します。
- 元電源のブレーカーを OFF にします。

## ●長期停止後の運転

- 空調と本体電源は早めに投入し、ウォーミングアップ時間として2時間以上取ってください。  
《注意》 寒冷期は室温が上がっても本体はまだ冷えており、ウォーミングアップに数時間を要する場合があります。  
※本体が冷えた状態で使用しますと製版品質に影響する場合があります。品質を維持するため、次の環境条件で使用し

<b>⚠ 警 告</b>	
	点検時の電源 装置の点検時には必ず電源スイッチを切ってください。
<b>⚠ 注 意</b>	
	保護具着用 現像液、定着液、その他の処理薬品を取扱うときは、保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。

- てください。
  - 温度：23 ± 2℃
  - 湿度：55 ± 5%（結露しないこと）
- 絵柄を露光して現像処理し、露光品質を確認してください。

## 製版フィルムプロセサー

AP-1250X / AP-800A  
FG-710 シリーズ / FG-860XK

洗浄・液仕込みの際は、必ずゴム手袋、保護メガネおよびゴムエプロンを使用してください。また、電源は OFF してください。

## ●長期停止前の準備

- 現像・定着・水洗の各ラックとクロスオーバーガイドを取り外し、洗浄と点検を行ってください。不良部品がある場合は、交換してください。
- 各処理タンクに水または温水を注入し、5 ～ 10 分程度循環させてタンク内を洗浄します。  
《注意》 現像部に 45℃前後の温水を入れると、安全機構が作動し、エラーとなる場合があります。温水を注入する場合は 40℃以下にしてください。
- 現像フィルターを交換します。
- 駆動軸周辺を清掃した後、ギアの古いグリースを拭き取り、新しく塗り替えてください。  
※専用品：サンコール LEN-317F（サンケイ化学製）  
《警告》 必ず装置の電源を切ってから行ってください。
- 現像・定着・水洗の各ラックをタンク内にセットします。
- 元電源のブレーカーを OFF し、給水元栓を閉めてください。

## ●長期停止後の運転

- 元電源のブレーカーを ON し、給水元栓を開きます。
- 現像ラックおよび定着ラックを取り外します。
- 現像液、定着液、水洗面を仕込みます。  
《注意》 処理液の仕込みの際、定着液が現像液中に混入するのを防ぐため、定着液を先に仕込みます。
- 現像ラックと定着ラックを各タンク内にセットし、クロスオーバーガイドを取り付けます。
- 上蓋をセットし、装置の電源を ON します。
- 始動時に不要な補充が入る場合がありますので、稼動データをクリアします。  
※ INTEGRA：補充装置の MDR クリアを行います。
- 液もれ、水もれがないか、配管系を点検してください。
- 絵柄を露光したフィルムを現像処理し、処理品質を確認してください。

## ベストメンテナンスで機器もリフレッシュ！

## 長期停止時の機器メンテナンスのポイント②

## トレリーフプロセサー

FTP-640II / FTP-640IID

洗浄・液仕込みの際は、必ずゴム手袋、保護メガネおよびゴムエプロンを使用してください。また、電源は OFF してください。

## ●長期停止前の準備

1. 本体の電源スイッチおよび元電源ブレーカーを OFF してください。また、パワーシスターン接続機は電源プラグをコンセントから抜きます。
2. 水漏れ事故防止のため、必ず給水元栓を閉めてください。
3. リンスパイプ、上側の搬送ローラーおよびスポンジローラーを取り外し、清掃してください。  
清掃後は風通しの良い場所で保管します。保管する際はローラー表面が直接床などに接触しないようにするため、ローラー軸の両端で受け、ローラーを浮かせるようにします。
4. ブラシ部駆動ユニットのハンドル両端にあるロックを外し、現像ブラシにかかる圧を軽くしておきます。
5. 洗い出し槽、現像ブラシ等、装置内を清掃してください。また、カバーを開けたままにして装置内を乾燥させます。乾燥後はカバーを閉じてください。
6. 洗い出し液をタンクから抜き取り、回収してください。

## ●長期停止後の運転

1. 給水元栓を開けてください。
2. 現像ブラシをロックしてセットしてください。
3. 搬送ローラー、スポンジローラーおよびリンスパイプをセットしてください。スポンジローラーが硬化している場合は、水に浸してスポンジローラーを軟らかくします。
4. パワーシスターン接続機は電源プラグをコンセントに接続してください。また、元電源ブレーカーと本体の電源スイッチを ON します。
5. 洗い出し液タンクに水が供給されていることを確認してください。
6. 洗い出し液タンクに界面活性剤（パーソフト）を規定量添加してください。
7. 洗い出し液が 40℃に加熱され、処理可能であることを確認してください。
8. セッターに露光済みの版をセットし、処理します。また、洗い出し状態および処理品質を確認してください。  
※操作の詳細は取扱説明書を参照してください。

## 東レ 水なし版プロセサー

TWL650 / TWL860 / TWL1160

TWL650F / TWL860F / TWL1160F

## ●長期停止前の準備

1. 水垢発生防止のため、現像槽と水洗槽の水を排水してください（現像槽と水洗槽は空のまま停止します）。
2. 空になった各タンク、ローラー、スプレーパイプなどを清掃してください。
3. 循環フィルターの交換時期が近づいている場合は交換をお勧めします。各フィルターの交換時期・処理枚数は取扱説明書を参照してください。
4. 元電源のブレーカーを OFF し、給水元栓を閉めてください。

## ●長期停止後の運転

1. 元電源のブレーカーを ON し、給水元栓を開きます。
2. 現像槽と水洗槽に水を注入してください。
3. 装置の電源を ON し、温調します。
4. 準備完了後（温調完了後）にヤレ版を 2～3 枚通し、処理状態を確認してください。

## サイン用 LED UV プリンター

Acuity LED 1600

ゴム手袋と保護メガネを着用してください。

## ●長期停止前の準備

1. セットしてあるメディアを取り除いてください。
2. スワブまたは専用クロスを使用し、ヘッド面を清掃してください。
3. キャリッジ下面を専用クロスで清掃してください。
4. ワイパーを専用クロスで清掃してください。
5. ゴムキャップに洗浄液を垂らし、インク排路とゴムキャップを清掃します。
6. 廃インクタンク内のインクを処分しアラームをリセットしてください。
7. 綿棒を使用し、紙幅センサーを清掃してください。
8. ピンチローラーを清掃してください。
9. メディア押さえを清掃してください。
10. 本体外装を清掃してください。  
※各項目の詳細は「Acuity LED 1600 取扱説明書」を参照してください。

## 《注意》

- ① 使用しない期間が 2 週間以内の場合は、「白インク循環機能」を ON にして、本機の側面（手前側）にある電源ボタンを切ってください。
- ② 使用しない期間が 2 週間以上になる場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

## ●長期停止後の運転

1. 本機の電源を入れ通常通り起動させます。
2. スワブまたは専用クロスでヘッド面を清掃してください。
3. 全ての色においてクリーニングを実施してください。
4. メディアをセットしてください。
5. テスト作図を行い、ノズルのカスレや抜けがないか確認してください。
6. 印字結果に異常が見られた場合はクリーニングを再度実施してください。
7. RIP からデータを印刷し、問題がないか確認してください。

## デジタルカラープルーフシステム

PRIMOJET-S / PRIMOJET-E



PRIMOJET-G / PRIMOJET-XG

## ●長期停止前の準備

1. 基準となる絵柄（お客様の管理チャート、PRIMO ソフトサポートチャートなど）を出力します。
2. プリンター用紙のロックを外し、用紙を巻き取ります。  
長時間、用紙の同じ場所をロックしたままにしておきますと、ロック跡がムラの原因になります。
3. 設定のバックアップをとっておくことをお勧めします。
  - ・PRIMO-S/E の場合：Application / 書庫、File / 全てのバックアップを実行する
  - ・PRIMO-G/XG の場合：システム / 環境のバックアップ / 作成

## ●長期停止後の運転

1. プリンターからインクを取り出し、よく振って再装填してください。顔料の沈殿の影響を軽減します。
2. 用紙を装着し、ロックします。
3. プリンターメニューで「クリーニング」を実施します。
4. プリンターメニューで「ノズルチェック」を行い、ノズル抜けがないことを確認してください。  
ノズル抜けがある場合、再度「クリーニング」または「パワークリーニング」を行ってください。

<b>警告</b>	
	点検時の電源装置の点検時には必ず電源スイッチを切ってください。
<b>注意</b>	
	保護具着用 現像液、定着液、その他の処理薬品を取扱うときは、保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。

5. PRIMO-G、PRIMO-XG に関しては、キャリブレーションを実行してください。  
※操作の詳細は取扱説明書を参照してください。
6. 長期停止前に出力しておいた基準となる絵柄（お客様の管理チャート、PRIMO ソフトサポートチャートなど）と同じものを出力し、休み前と近似していることを確認します。  
ソフトサポートに加入されているお客様は、前後の違いの確認に関してプルーフ診断サービスをご利用いただくことができます。

## サイン用 UV インクジェットプレス

LUXELJET

プリントヘッドの清掃の際は、ゴム手袋と保護メガネを着用してください。

## ●長期停止前の準備（3～14日停止時）

1. ランプを OFF します。
2. パージを 2 回行います。
3. メンテナンスステーションのカバーを閉じ、インクリザーバーがフルになるまで待ちます。
4. パージを 2 回行います。
5. 通常のプリントヘッドの清掃を行います。
6. スワブでプリントヘッド表面を清掃します。
7. インクヒーターを OFF します。
8. コントローラー画面の「設定」タブで「プリンター」内の「自動ウォームアップ」が OFF になっていることを確認します。  
《注意》 電源は常時通電してください。  
電源を OFF のままにしておきますと、プリントヘッドに障害が発生することがあります。

## ●長期停止後の運転（3～14日停止時）

1. コントローラー画面の「設定」タブで「プリンター」内の「自動ウォームアップ」を ON に設定します。
2. 設定温度に到達後、スワブでプリントヘッド表面を清掃します。
3. 通常のプリントヘッドの清掃を実施後、ノズルチェックパターンを出力し、ノズル欠けが無いことを確認します。

## 《15日以上停止する場合について》

長期停止のための準備作業と停止後の立ち上げ作業が必要となります。サービス担当者にご相談ください。